

カー用品専科・月刊誌

春の新作、その見どころを直送!

[カーグッズマガジン]

Since
1999

www.cargoodsmagazine.co.jp



簡単
でも
本格派

2025年はコレが来る!



愛車防犯の

真打ち、登場!



高級の
概念を
刷新

着座環境EVO

エボリューション!



リサイクル
新変化

リモートで制御 光バラエティ

もちっと新触感



あれも
これも
すべて!

車内空間をまる洗い

プロ現場
より直送

タフな電気助っ人



消臭も
アロマも!

空気もプレミアムに

【新製品特集】

次なる狙い目をロックオン!

用品時事通信

[2025年 = 春版 =]

しっかり「音」出そう!

ボディ編

サウンドチューニングは様々だが、ドアチューニングの防音、制振、吸音の3つの機能に即してそれぞれのシートを揃えたもの。ドア2枚分の施工が可能だ。



Audio-Technica
**ドアチューニングキット
AT-AQ405**
価格：1万6500円
オーディオテクニカ
0120-773-417
<https://www.audio-technica.co.jp>

合言葉にしたい「まずはドアから」 制振から始まる高音質づくり

良いサウンドを実現する中で、必須となるのが制振や防音だ。少し地味なだけに注目はされにくいだが、必ず通るべき道であることは間違いない。そして効果がまた高いのも、この作業の特徴ではないだろうか。

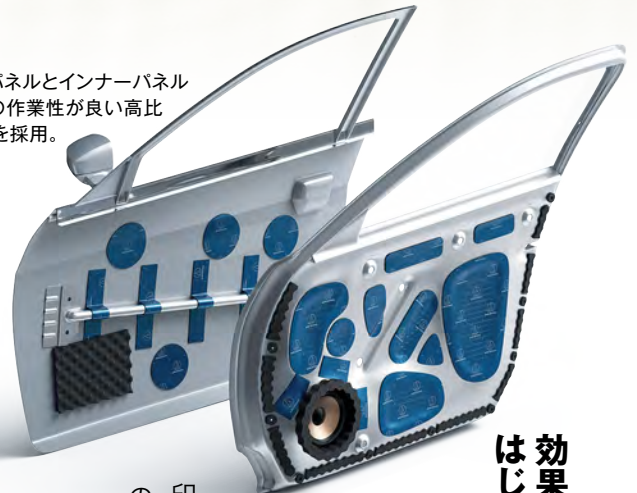


施工のイメージ

このキットひとつで、アウターパネルとインナーパネルの両方の施工が可能。施工時の作業性が良い高比重1.8のヴァージンブチルゴムを採用。

施工前の ドアパネル

ドアトリムを外した状態。トヨタ・アクアの場合、インナーパネル部分には手前の大きな穴が空いており、そこが樹脂パネルによって塞がれている。



効果を期待できる
はじめの一步

「まるで高級車の室内環境みたい」というのが、オーディオテクニカのドアチューニングキット『AT-AQ405』を施工したトヨタ・アクアのオーディオを試聴してみた印象だ。この製品は、クルマ専用の制振材、吸音材、防音材をセットにしたキット。フロントドア内側に施工することで、オーディオの音質を一気に向上させることができる。

クルマの仕立てと、オーディオの性能は常に背反する。クルマはできるだけ軽く仕立てたいし、製造上無駄な工程をできるだけ省きたい。そうすると鉄板は薄くなり、内側の不要部分には穴を開けたいし、薄いプラスチックも多用される。スピーカーはその薄い鉄板の上に固定され、鉄板は簡単に振動する。プラスチック部分もびびるような音を発生する。特に小さなクルマのオーディオがイマイチだと言われるのは、できるだけ軽く合理的に作りたいからで、オーディオのために振動を抑えたり吸収したりすることは、できればや

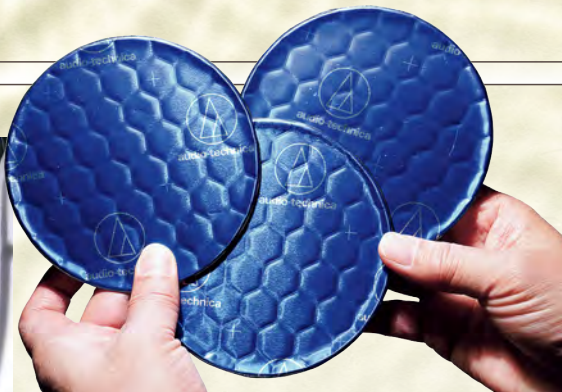
制振材の貼り付け

同梱のヘラによって、パネルの形状をなぞるように貼り付ける。このプチルゴムは手につにくいので施工がやりやすいという。



アウターパネルへの施工

大きな樹脂パネルを外した状態で施工。下のサイドインパクトバーとボディパネルは共振周波数が異なることから、一括で制振材を貼ることでより有効な制振効果を得られる。

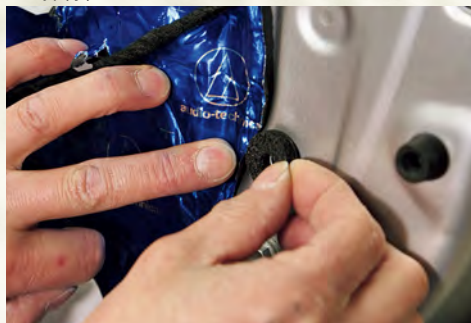


アウターパネル制振用バイブレーションコントローラー

アウターパネルはわりと平板なので、円形にして制振性能を均一な特性としている。12cmという直径のサイズも長年の経験が生んだものでもある。

クリップダンパーの取り付け

内装パネルはクリップなどで固定されるが、その部分にもドーナツ状のダンパーを設置。固定部分でのびびりなどを抑制する。



りたくないのだ。
サウンドがイマイチの原因はスピーカーのマウント部分がしっかりしていないことで音を出しきれていないこと。このドアチューニングキットは、ドアのアウターパネルの内側とインナーパネルの制振、吸音、防音を行なえるトータルキットだ。専用工具不要でDIYでも施工が可能なものとなっている。

ノーマルのスピーカーが見せる高音質ぶり

試聴したアクアは、トヨタ純正のディスプレイオーディオにノーマルのフルレンジスピーカーを備える。まずはノーマル状態で聞いてみると、近年純正モデルも性能向上を果たし

施工の完成

樹脂部分は全面的に制振。鉄板部分は一定量の平板部分を残さず、また強度の高い折れ線部分とまたぐことで制振を強化。吸音材は内装材との接点を意識して配置。

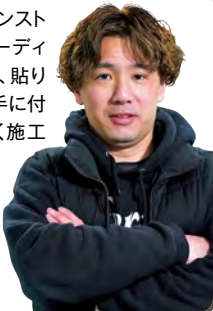


てきているが満足とは言えない緩さも散見。ポリウムを上げていくと、低音側にびびり音も確認することができた。

対する施工後は、特にボーカルのニュアンス的な部分が明確化されるなど、音の解像度が高まっていることが容易にわかる。これは微細なことではなく、おそらく誰もが理解できるだろう。標準装備されているフルレンジスピーカーなので、やはり周波数特性には限界がある。低音域が下がっていたり、高音が伸びなかったりするのが素性ではあるが、施工後はこんなにもワイドレンジで安定した音が出せるのか、と驚いてしまうほどだ。一般的にはオーディオチューニングと言えば、まず出口のス

施工してくれた、プロインストラーの新川彰さん。オーディオテクニカのこの製品は、貼り込みの際に切れにくい手に付かないとのこと。とにかく施工がしやすいので、これしか使わないのだという。

店名: BEATIFIC
オープン: 2025年6月予定
(埼玉県宮代町)
連絡先: shop@beatific-a-d.com



驚きのサウンドを堪能

早速試聴してみる。スピーカーは完全にノーマルのフルレンジなのに、驚くべき施工の効果を実感させられた。

ピーカーからとなるとところだが、実際にはその出口のベース部分をしっかりと仕立てることから始めるのが、ベストな対策だ。そうすることで、その先のスピーカー交換も飛躍的に感動できるはず。ぜひまずは、ドアの対策をやってみてはどうだろうか。